

LPガス発電設備を拡販

有限会社テクノコンゴ

今回は、非常用自家発電設備の設置工事、納入後の発電設備の定期点検や分解整備を手がける「有限会社テクノコンゴ」取材しました。所在地は、〒587-0022 大阪府堺市美原区平尾2405番地1。☎072-362-8228。代表者は、大阪府富田林市甲田のオーハツ株式会社で代表取締役社長を務める芝谷康二氏が兼任しています。

平成23（2011）年3月の東日本大震災以降、災害時の事業継続用（BCP）電源確保に適した長時間形（72時間～168時間対応）の「非常用自家発電設備」の普及に拍車がかかりました。

『災害時も燃料の確保と取り扱いが容易であるため、環境配慮型・小型の非常用LPガスエンジン発

電設備を導入する病院施設や介護施設、自治体の小規模施設、企業の情報通信施設が最近では増えています』（テクノコンゴ統括部長の宮原紀行氏談）といます。

停電対策用の保安用電源・業務用電源として納入される自家発電設備や制御盤などの販売から設置工事、メンテナンス、リニューアル工事、アフターサービスまでを一気通貫体制で実施している有限会社テクノコンゴの取り組みを紹介します。

創業の経緯

有限会社テクノコンゴの設立は平成6（1994）年6月。親会社オーハツ株式会社のサービス部門を分離・独立させる形で、オーハツ敷地内に設立されました。現在、資本金は300万円。従業員数は8名。売上高は2億5,000万円。

設立以来、オーハツが製造し納入した防災用自家発電設備、非常用自家発電設備などの「カスタマーサービス業務」に特化して事業を展開してきました。自家発電設備の設置工事、納入時の現地試運転、納入後の現地保守点検・修理、工場での分解整備、



有限会社テクノコンゴの本社棟（右）と整備工場（左）



小型LPガスエンジン発電設備「LPG-G5000S」

発電設備の関連部品などの販売も行っています。

平成30（2018）年12月上旬に完成した本社事務所（鉄骨造1階建て延床面積195m²）と整備工場（鉄骨造2階建て延床面積400m²）を開設し、本格操業を開始しました。本敷地にはオーハツ（株）美原工場が併設されています。

なお、テクノコンゴーは平成31（2019）年6月に設立25周年を迎えます。

事業の変遷

有限会社テクノコンゴーでは設立以来、自家発電設備に関する「性能確認」「定期点検（メンテナンス）」「分解整備（オーバーホール）」に加え、自家発電設備に搭載される制御盤に関する「リニューアル工事」などの業務に取り組んできました。

発電設備の「性能確認」に関する業務としては、テクノコンゴーでは発電設備の設置先へ出向いて、30%～100%の模擬負荷試験の啓蒙・実施や、法令で定める定期点検に係わる業務を堅実に遂行しています。自社で製品化した、力率負荷試験装置（対象範囲：10kVA～750kVAまで）を用いて定格力率負荷試験を実施しています。さらに、抵抗負荷装置（対象範囲：10kW～750kWまで）を用いて模擬負荷試験も実施しています。

発電設備の「定期点検」に関する業務としては、万一の災害発生時の停電に備え、平常時から防災用自家発電設備、非常用自家発電設備には定期点検（メ



2018防災産業展 in 東京ビッグサイトの出展ブース

ンテナンス）の実施が必須とされています。テクノコンゴーでは半年ごとの定期点検、1年ごとの定期点検を請け負い、非常用自家発電設備に搭載されている自動始動発電基盤の確認運転・模擬負荷試験、絶縁抵抗測定、耐圧・継電器性能試験、蓄電池性能試験などを法令に則って実施しています。

発電設備の「分解整備（オーバーホール）」に関する業務としては、発電機単体の取出・分解から、絶縁劣化診断測定、洗浄、ワニス真空含浸、切削・バランス測定、赤ニス塗装、再組立・納品までを、テクノコンゴーでは一気通貫体制で実施しています。

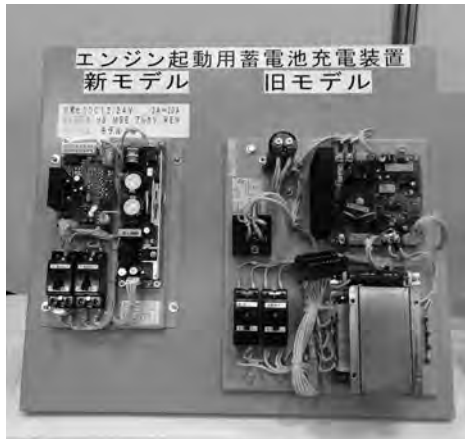
制御盤の「リニューアル工事」に関する業務としては、自家発電設備に搭載されている制御盤は数多くの電子部品が組み合わされて構成されています。電子部品の寿命はおおむね7年～10年とされています。テクノコンゴーでは経年劣化に伴う非常用自家発電設備の分解整備と併せて、構成機器である制御装置（コントローラー）のリニューアル工事、充



テクノコンゴの非常用発電機PC自動制御装置の新モデル



テクノコンゴが開発した力率負荷装置



エンジン起動用蓄電池充電装置の新モデル（左）
電装置のリニューアル工事、自動電圧調整器（AVR）
のリニューアル工事を実施しています。



（写真上の右）力率負荷装置4号機（160kW）の内部配線
「常用LPガスエンジン発電設備（LPG-G5000S）」
の展示を行い、全国各地から集まった来場者たちの
注目を集めていました。

注力する事業分野

ここ数年、日本では大規模災害が相次ぎました。その結果、停電対策用として特に保安用電源および業務用電源の有効性に対する施設の施主、施設の委託管理者などの防災意識の向上につながったと言われています。テクノコンゴでは非常用自家発電設備の潜在的ユーザーのニーズの発掘に注力してきました。その結果、LPガス・都市ガス13A仕様の環境配慮型・小型の非常用ガスエンジン発電設備（出力5.5kVA・7.5kVA）を製品化しました。

今後の注力事業として小型の非常用ガスエンジン発電設備の販売拡大に邁進していく所存です。平成30（2018）年から本格販売を開始しました。

本格販売に先立ち、平成30（2018）年6月の3日間、日刊工業新聞社の主催により東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「2018防災産業展 in 東京」では、初めてテクノコンゴブランド名で「小型の非

自社による直販分と代理店による販売分を合わせて病院・介護施設、情報通信施設向けに既に60台超の受注を獲得したといえます。

また、引き続き、小型の非常用空冷ディーゼルエンジン発電設備（出力2kVA～5.5kVA）、超低騒音型の非常用ディーゼルエンジン発電設備（出力10kVA～750kVA／55dB～85dB対応）も積極的に売り込んでいく所存です。

一方、平成30年（2018）年6月1日付けで、消防用設備等の点検基準および消防設備等点検結果報告書に添付する点検票の様式一部が改正されました。同日付けでの改正により、非常電源（自家用発電設備）には1年に1回、30%以上の負荷をかけて30分以上運転をさせた試験結果を報告する必要があるとされています。

それを踏まえ、テクノコンゴでは、納入後の非常用自家発電設備を対象として、定期点検の際には負荷試験の徹底実施にも注力していく所存です。